

連携協定締結で初開催

ものづくり担う人材を 秋田職能短大と県北3高校 取り組み深化へ推進会議

秋田職業能力開発短期大学
校と鹿角、大館桂桜、能代科
学技術の県北3高校が結んだ
連携協定に基づき、取り組み
を具現化するため、第1回高
大連携推進会議が11日、大館
市の同短大で開かれた。これ
までの連携した取り組みを深
化させるとともに、子どもた



初めて開催された高大連携推
進会議（秋田職能短大）

ちにもものづくりの魅力をアピ
ールする活動が必要との声が
上がった。

連携協定は先月28日に締
結。同短大生の県北出身者が
減少するなど若者の流出が進
む中、協力してものづくりを
担う人材育成に取り組み、地
域活性化につなげる狙いがあ
る。

推進会議には同短大から徳
田孝明・能力開発部長や3科
の担当者ら5人、高校側は各
校の教頭や担当教諭6人が出
席した。

徳田部長は「ますます人口
減少が激しくなる中、大学と
高校、小中学校など縦の連携
が重要になる。この連携が地
域の教育機関同士が手を取り
合い、子どもたちにもものづ
くりの楽しさを伝え、地域の持
続的な発展を支える新たな一
歩となることを願っている」
とあいさつした。

最初に同短大と各高校間で

これまで行ってきた出前授業
など連携の取り組みを確認。
同短大は新たに、高校学校祭
へ「ものづくりブース」の出
展、高校にない機材での加工
・実習支援、教材づくりの支
援などを提案した。

高校側は、研究成果発表の
場として、これまでも近隣高
校と合同発表形式で行われて
きた「ポリテックビジョンi
nおおだて」への参加や、普
通科を含めた生徒の支援など
を要望。「高校に入る前の小
中学生に工業系学科やものづ
くに

興味を持ってほしい。若い世
代にアピールするイベントを
企画しては」との声も上がっ
た。

この日話し合った内容を各
校に持ち帰り、さらなる要望
も踏まえながら、連携した取
り組みを進めていく。次回の
推進会議は2月に予定してい
る。